

## CIFLE Report No. 49

### プレゼンテーションでの慣用表現の役割

田中茂範 (ココネ言語教育研究所)

即興の会話であれ、がっちりした論文であれ「論の展開 (argumentation)」は重要です。論理展開には問題発見、現状分析、物語展開、問題解決などその目的によって幾通りもの展開方法があります。ここでは、プレゼンテーションを例にして、論の展開の仕方を見ていくことにします。ここでのポイントは、慣用表現でプレゼンテーションにおける思考の流れをナビゲートするということです。「慣用表現の連鎖」のことを formulaic chaining と呼びます。本稿は2つのパートに分かれます。まず Part 1 では、プレゼンテーションの冒頭部分に当たる以下の流れに注目します。

#### Part 1

注意を喚起する

謝辞を述べる

有名な言葉などを引用する

目的を述べる

述べる内容の順序を示す

#### 注意を喚起する

まず、何かを話す前に、相手の注意を喚起するでしょう。日常会話であれば、「あのさあ」「ねえ、聞いて」「ほら」などに当たる表現を使います。英語だと、Hey、Listen、Now、Look、Well …などが使われます。しかし、プレゼンテーションのような改まった状況では、こうした表現は礼を失した表現と受け取られ、通常は、次のような表現で口火を切ることがあります。

- ・ OK, I'd like to start now. (そろそろはじめさせていただきます)
- ・ OK, now, shall we begin? (では、そろそろはじめましょうか)

こういう表現を用いる際には、聞き手は、話す内容がある程度準備されており、話の流れが示されるものと期待します。ただし、司会者 (chair) や調整役の人 (moderator) がいる場合には、司会者が使う言葉でもあります。

## 謝辞を述べる

開始のシグナルの次に、感謝の意を表す謝辞を述べるのがよくあります。感謝の場合には、「ここにお招きいただき感謝している」とか「ここで話す機会をいただき光栄です」などに相当する以下のような表現をよく使います。

- ・ First of all, thank you so much for inviting me to this conference. この会議にお招きいただき感謝しております。
- ・ I'm honored to have an opportunity to talk here. ここでお話しする機会をいただき、光栄です。

この2つは、一般的な謝辞の方法ですが、誰か特定の人に謝辞を述べるということもあるでしょう。その場合に使うことができる表現は以下です。

- ・ I'd like to start by thanking Professor Johnson for giving me this opportunity to express my ideas about language education. 私の言語教育観について話せる機会を与えていただいたことについて、まず、ジョンソン教授に感謝したいと思います。
- ・ First of all, I'd like to thank Professor Johnson for giving me this opportunity. 私にこの機会を与えてくれたジョンソン教授にまず感謝いたします。

大統領の演説などでは冒頭で謝辞を述べるのがよくみられます。

## 有名な言葉などを引用する

何かを発表する際に肝心なのは、プレゼンテーションの目的、狙いを述べることです。いきなり目的がなんであるかを明らかにすることもあります。多くの場合、その背景について述べてから、目的に入るでしょう。絶えず、聴者を意識した語りをする必要があります。そのためには、次のような聴者を巻き込む表現を利用します。

- ・ as you (all) know (みなさん) ご存じのように
- ・ I'm sure you are all aware of... もちろん、皆さんお気づきのことですが

あるいはエピソードをまず話すという場合もあります。前国連事務総長の Kofi Annan がノーベル平和賞の受賞の際に行った有名な演説は、以下のように、あるエピソードで始まりました。

Today, in Afghanistan, a girl will be born. Her mother will hold her and feed her, comfort her and care for her — just as any mother would anywhere in the world. In these most basic acts

of human nature, humanity knows no divisions. (今日、アフガニスタンで女の子が生まれるでしょう。彼女の母親は彼女を抱き、授乳し、彼女をあやし、彼女の世話をするでしょう。それは、ちょうど、世界中のどこにあってても母親がやっているように。こうした人間の本性ともいえる最も基本的な行為において人間に区分はありません)

こう述べた上で、アフガニスタンが直面する状況の厳しさ(貧困など)に言及するというやり方です。

また、導入したい話題の背景(background)を述べる際に、誰か著名な人物の言葉を引用するという方法もよく用いられます。引用する際の便利な慣用表現は以下の通りです。

- ・ According to John Dewey, “education is not a preparation for life; it is life itself.” (ジョン・デューイによると、「教育は人生のための準備ではなく、それは人生そのものである」)
- ・ As far as education is concerned, Nelson Mandela once said, “Education is the most powerful weapon one can use to change the world.” (教育に関して、ネルソン・マンデラは「教育は世の中を変える最も強力な武器である」と述べたことがある)

## 目的を述べる

次に、本題に入るわけですが、まず、話の目的・狙いを明らかにしなければなりません。聴衆は、述べられた目的がどう展開していくかに期待を寄せるのです。そこで、何が目的であるかを明確に述べる必要があります。ここでも慣用表現が活躍します。

We are (I'm) here today to talk about ...  
The purpose of my presentation is to ...  
Today we're going to  
The target of our today's meeting is to  
The main aim this morning is to ...

consider the present problem.

ここでは例として consider (考慮する) を使っていますが、ほかにも review (振り返る)、discuss (議論する)、analyze (分析する)、go over (ざっと見ていく) などの動詞がよく使われます。

上記のように直截に目的を述べる方法以外にも、Generally, I'd like to discuss (good teaching methods). More specifically, I'd like to focus on (a cognitive method of teaching English). (大きなテーマとしては効果的な教授法についてお話ししたい。もっと具体的にいうと、英語指導の認知的方法に焦点を当てたい) という表現のしかたもあります。

### 述べる内容の順序を示す

何かについて話す際に、「3点について話します」のようにはっきり述べて、そのひとつひとつについて述べると、聞く側も話の道筋が予想できるので、話の内容を理解しやすくなります。Steve Jobs がスタンフォード大学の卒業式で行った有名なスピーチは次のような導入ではじめました。

I am honored to be with you today at this commencement from one of the finest universities in the world. Truth be told, I never graduated from college. This is the closest I've ever gotten to a college graduation. Today I want to tell you three stories from my life. That's it. No big deal. Just three stories. The first story is about connecting dots. (世界最高の大学の1つの卒業式にこうしてみなさんと一緒にできることを光栄に思います。正直いうと、私は大学を卒業していません。これが、大学の卒業式というものに私が一番近づいた瞬間です。今日、私の人生経験から3つのお話をしたいと思います。私がお話するのはまさにそれです。大げさな内容ではありません。ただ3つの話です。最初の話というのは点を繋ぐということに関してのものです)

まず、感謝の意を示し、簡単なエピソードを入れて、目的を述べます。そして、これから話すのは3つの話であるということが告げられています。このように「3つ」と述べたら、それが何であるかを明らかにしなければいけません。

順序立てて話をするのに、Jobs は The first story is about connecting dots. と述べてからその内容を詳しく説明し、次に My second story is about love and loss. と述べてからその内容を説明し、そして My third story is about death. と述べ、そのことについて述べていきます。

話の内容が2つのポイントであれば、One is (1つは)、The other is (もう一つは)と、列挙するまでもありません。しかし、3つになると、「第一に」「第二に」「そして第三に」と列挙するのが有効です。「第一に」に当たる慣用的ないい方は以下です。

- ・ I'd like to start by ... / Let me start by ... (☞から始めましょう)
- ・ First of all (まず、第一に)
- ・ To begin with / To start with / To start off (まず初めに)
- ・ First / Firstly (第一に)

そして次に、「第二に」「そして第三に」と順序を明確に示します。このように、話のポイントを列挙するには、以下のように、second, third のように助数詞を使います。

- ・ Second / Secondly (第二に)
- ・ And third / thirdly (そして第三に)

「そして第三番目に」は And third あるいは And thirdly と and を加えることで、最後の3つ目であることを示すことができます。実際は、There are three … First, … Second, … And third, … とリストしていくやり方が基本です。例えば、あなたが日本の福祉に不安を抱えているとします。そこで、I'm very concerned about the Japanese welfare system. I think there are three reasons for this. (日本の福祉制度をとっても心配しています。これには3つの理由があると思います) と述べてから、次のように理由を列挙します。

First, Japan is an aging society. The number of young people who support older people is rapidly declining. Second, there is a possibility that more and more people go abroad and live their lives there. And third, Japanese economy is unlikely to expand dramatically. I'd like to explain each in more detail. (第一に、日本は高齢化社会である。年寄りを支える若者の数が急速に減少しているのです。第二に、海外に出て、そこで生活をする人の数がますます増えるという可能性があります。そして第三に、日本経済が劇的に成長するという事は考えにくいといえます。それぞれについて具体的に述べていきます)

ポイントが4つあるいはそれ以上ある場合には、最後は、Finally あるいは And finally で締めくくることがよく見られる表現方法です。要は、話をする全体的な内容に「構造」を与えるということです。構造を与えることで、情報の流れを「見える」ようにするので

## Part 2

次に Part 2 では論を展開する状況を見ていきます。論の展開を効果的に行うには、いろいろなことに注目する必要がありますが、以下は特に重要です。

1. 定義・例証する  
定義する／例示する
2. エビデンスの提示  
グラフや表を見せる／グラフの説明／因果関係を示す
3. プレゼンテーションの流れの調整  
言い直しをする／話しながら要点を示す／話題を移す
4. 要約・結論  
要約する／結論を述べる

### 1. 定義・例証

プレゼンテーションでは、「鍵となる概念 (key concept)」がよく導入されます。justice(正

義)、motivation (動機づけ)、human dignity (人間の尊厳) などがある例です。こういう概念は定義しなければ、話の内容が曖昧になり、説得力が生まれません。「このプレゼンテーションでは『この用語はこれこれしかじかの意味で用いる』」ということを示すのが定義 (definition) です。しかし、定義だけでは、なるほどと実感を持ってメッセージを伝えることはできません。そこで必要なのが例示 (illustration) です。例示は、その概念が適用される事例のことです。

まず定義するには I'll define "justice" this way. とか Let me qualify the term "justice" here. のように言うてから、具体的な定義に入ります。"Justice" is a difficult term to define. I'll tentatively define it this way. などと留保したかたちで定義することもあるでしょう。

次に例示ですが、典型的に使われる慣用表現は以下の通りです。

- To illustrate
- For example
- For instance
- I'll give you an example

例えば、“justice”という用語について、I define “justice” as a fair way of distributing things. (わたしは正義というものを物事を分配する公平な方法と定義する) と述べたとします。しかし、このままでは何のことかよくわかりません。そこで、次のような例示が必要なわけです。

To illustrate, consider a situation where a mother is trying to divide a half cake for two boys, Tom and Bob. The mother says, “Tom, you cut this cake, and Bob, you choose the cake.” This is a fair procedure so that neither Tom nor Bob will complain afterward. This is an example showing what I mean by justice. 例示として、ある母親が2人の少年 (トムとボブ) に半分ケーキを分けようとしている状況を考えてみましょう。「トム、君がケーキを切りなさい。そしてボブ、君がケーキを選びなさい」と母は言います。これは公平な手続きでトムもボブも不満をもたないでしょう。これが、私がいう正義を示す例です。

例示だけみても、それが「正義」とどう関係があるかはわかりません。しかし、「公平な分配方法」という定義が与えられていると、例示された内容と定義がつながります。これが例示の力です。なお、論点を強化するため、例を重ねる方法として以下のような慣用表現も使えるようにしておきたいところです。

In addition,

Furthermore,

In addition to that,

What's more,

On top of that,

we must also reduce the budget and the size of the project.

「2, 3例をさらに加えるなら」といいたいときには to add a few more examples といいま  
す。また、話をしている途中で「一言付け加えたい」だと I'd like to add a word. がよく使  
われます。

## 2. エビデンスの提示

説得力のあるプレゼンテーションには証拠 (evidence) が必要です。その際に典型的に用  
いられるのがデータです。データは、グラフ (graph)、チャート (chart)、図 (figure)、表  
(table)、ダイアグラム (diagram) という形で示されます。そこで、「～を見ましょう」と  
いう決まった言い方をまず押さえましょう。

### グラフや表を見せる

I'd like you to look at

Let me show you

Let's take a quick look at

Have a look at

this graph/this chart/this figure/ this table/ this diagram.

次に、縦軸 (the vertical axis)、横軸 (the horizontal axis)、折れ線 (the broken line)、実  
線 (the solid line)、曲線 (the curve)、網掛けの部分 (the shaded area)、網掛けのない部分  
(the unshaded area) などグラフやチャートの読み方を説明する必要があります。その際  
に、押さえておきたい表現は以下の通りです。例題としては「～は市場のシェアを表してい  
る」で、「表す」は show あるいは represent をよく使います。

The vertical axis/The horizontal axis

The curve / The solid line / The broken line shows/represents our market share.

The shaded area/ The unshaded area

変化を描写する副詞も必要で、上昇するは rise で、落ちるは fall ですが、その変化のありよ  
うを表現するには以下のような副詞を使うことができれば表現が豊かになります。

slightly, a little, gently, steadily, sharply, suddenly, rapidly, dramatically

なお、「横這いである」は level off や flatten out という言い方をします。

そして、得られた結果から何がいえるかを述べる必要がありますが、その際に便利な表現は以下の通りです。

<p>Our findings show The results of our study show The figure indicates It seems clear from the results that</p>	that the market situation is getting worse.
--	---

### 因果関係を示す

「この図を見れば、～なことがおわかりでしょう」に相当するのは If you look at this figure, you will see (the fall in prices). のような表現です。ここでは「価格の低下」に注目したとして、その原因を述べるのがよくあります。考察を行う際に大切なのが因果関係に言及するということです。「ある結果がある原因によって引き起こされている」という発想の表現のしかたにも慣用化されたものがあります。以下は、「物価の下落は新たな競争によって引き起こされている」という内容を例にしたものです。

The fall in prices	<p>was due to was caused by was the result of was brought about by resulted from</p>	new competition
--------------------	--	-----------------

こうした表現と同様に、例えば「価格の低下が利益の低下を引き起こす」のように、原因を主語に立て、次に結果を述べるという表現のしかたも押さえておきましょう。

The fall in prices	<p>leads to causes results in brings about is the reason for</p>	the fall in profit.
--------------------	--	---------------------

因果関係を述べる際に、「その結果として」という表現のしかたです。典型的には as a result と as a consequence が使われます。Prices fell. As a result, our profit also fell. (物価が下がった。その結果、わが社の利益も下がった) のように、「あることを述べ、その結果、ある



ことが起こる」という語り口です。

関連して、結果の考察を元にして、将来の予測 (forecast) を立てることもあるでしょう。その際の慣用的ないい方は以下の通りです。

Our forecasts show We expect We predict We anticipate We forecast	that inflation will fall next year.
---	-------------------------------------

「予測する」で使われそうな動詞は、expect, predict, anticipate, forecast の4つです。

### 3. プレゼンテーションの流れの調整

プレゼンテーションを効果的に行うには、その場で聴衆に語りかけるように自然に話すことが重要です。練習し、完成した内容をなんの言いよどみなく話すよりも、多少のアドリブ的な演出があるほうが自然な感じがするし、聴く側も心地よく耳を傾けることができます。そういう演出に必要なのが、「言い直し」「話しながら要点を示す」「話題を移す」といった行為です。

#### 言い直し

言い直しは、情報的には冗長な重複とみなされるかもしれませんが、耳で聞いて内容を理解するのは、重複は不可欠です。何か大切なことを述べて、聴衆に伝わりにくい、あるいは自分でも言いたいことがクリアでない場合、「言い換えると」「換言すれば」「つまり」などの言葉とともに言い直しをします。英語では、言い直しを行う際には、以下が典型的に使われる表現です。

The elderly man has a strong drive for learning Arabic.	
In other words, That is, To put it differently,	he has self-determined to study Arabic.

drive という用語を言い換えるのであれば、another word for A is B のような言い方で、He has a strong drive for learning another language. Another word for “drive” is “motivation.”と表現することができます。

### 話しながら要点を示す

日常会話だと、「私が言いたいのは」といった言い方をよくします。話が混乱してきたときなど、「つまり、言いたいのは～ということです」と話の流れを調整するのです。プレゼンテーションでも同じで、即興で話しているような演出の中で、以下のような表現をうまく使いながら要点を示すとメリハリができ効果的です。以下は「経営陣は重要な機会を掴み損ねた」ということが言いたいことだという意味合いです。

What I'm saying is

The point is

My claim is

What I'm getting at is

The crux of the matter is

that management has failed to grasp important opportunities.

Let me clarify the point. だとか Let me come to the point. と述べてから、論点を示す方法もあります。要点を示すだけでなく、それを以下のような慣用表現を使って強調するというのも効果的な手法です。

- This is what I want to emphasize.
- I want to highlight [stress, underline] this point.

### 話題を移す

まとまった内容のことを話す場面では、複数の話題を取り上げることがあります。その場合、話題を移す際の決まり文句を上手に使うことが大切です。日本語でも同じですが、いきなり話題を変えると唐突な感じになります。そこで、次のような慣用表現を知っていると便利です。

Let's now move on to

I'd now like to go on to

This brings me to

the financial aspects of the problem.

話題を移すという場合、話を進めるだけでなく、話を戻す場合だってあります。そのときは、Let's go back to や Let's look back to という言い方をします。ある話題に言及して「～に関しては」と表現したい場合には、with respect to、with reference to、in terms of などを使い、With respect to sales, the situation is improving. のように表現します。

話題を移すといっても、話題からそれる話をするということもあるでしょう。その場合にも、以下のような慣用表現をうまく使うことがポイントです。

Let me digress here.

I'd just like to mention ... in passing.

In passing, could I say ...

もちろん、あまり議論の流れと関係ないことをいえば、What's the relevance of this? (このことを議論となんか関連があるですか)、Aren't you sidetracking a little here? (少し話題がそれていませんか)、Can we keep to the point? (話題をそらさないようにしましょう)といった反応が返ってくるでしょう。

#### 4. 要約する、結論を述べる

最後に要約し、結論を述べ、そして締めくくる必要がありますが、その際の慣用表現は以下です。

要約する

- ・ To sum up
- ・ To wrap up
- ・ To recapitulate then,

結論を述べる

- ・ To conclude, I'd like to say
- ・ I'd like to conclude by saying
- ・ Let me end by saying

締めくくる

- ・ Thank you. You no doubt have many questions.
- ・ If there are any questions, I'll do my best to answer them.

要約は、発表のポイントのみを繰り返し述べる、結論は文字通り「最後の一言」を述べる、そして、「締めくくり」は感謝の意を表すと同時に、通常は質疑応答に入るシグナルを送ります。

#### おわりに

本稿では、プレゼンテーションのしかたを説明しました。ここでも大切なことは、プレゼンテーションの技法を磨くには、慣用表現を使って思考と表現をナビゲートすることです。慣用表現の力は「スゴイ」ものがあります。